

2026年5月29日

横須賀市長
上地 克明 殿

(株)グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン
取締役社長 山崎 肇

2026年3月14日に発生した弊社分電盤での火災に関する報告

標記について、度重なる火災の発生により、市民の皆様にご多大なるご心配をお掛けしており、改めてお詫び申し上げます。これまでの原因調査結果及び再発防止策について、以下のとおり報告させていただきます。

記

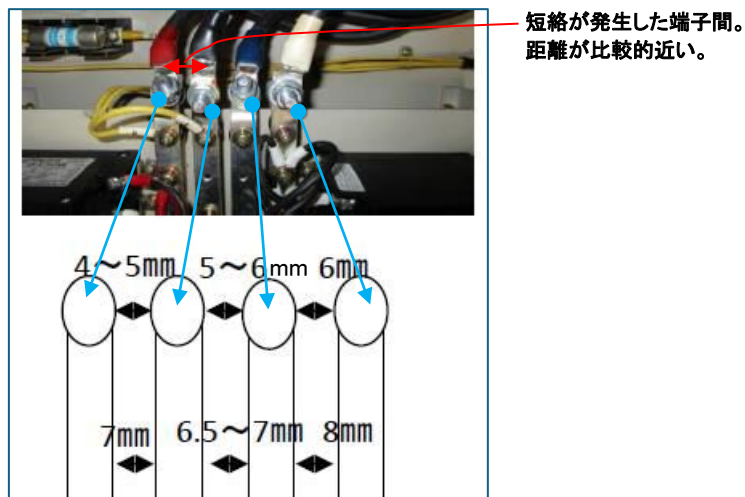
1. 火災発生当初の措置

2026年3月14日に発生した火災は、第2加工棟第2-3階酸化ウラン取扱室内の照明用分電盤内で発生した短絡によるものですが、その直後から、当該分電盤を使用禁止とし、さらに電源ケーブルを物理的に外し、通電していない状態としました。

なお、当該分電盤は室内照明用のうち、常用照明用ですが、その周辺は非常用照明を点灯させることにより、この場所での明るさは補完されているため、加工施設全体の安全性について、直接影響を及ぼすものではありません。

2. 原因調査と結果

消防局による鎮火確認後、分電盤内での火災（短絡）発生原因の調査及び社内での協議を行いました。その結果、このことだけで、直ちに短絡を発生させるような状態ではありませんが、分電盤内に端子間の距離が比較的近い所が存在したことが分かり、一つの原因であると考えました。



短絡が発生した分電盤内の端子間距離の状況

3. その後の処置

このため、3月18日までに、工事記録書類により端子間距離が短い可能性があると考えられた分電盤94台（全330台中）について、優先的に現場の点検を行いました。そして、上記94台のうち、このことだけで直ちに短絡を発生させるような状態ではありませんが、端子間距離が短いと判断された9台の分電盤について、端子部に絶縁テープを巻く処理を4月2日までに完了しました。



端子部に巻かれた絶縁テープ

端子間距離が近い分電盤についての絶縁テープ処理の様子

4. 更なる原因究明

上記以降、第三者である専門業者により、さらなる短絡原因の可能性の洗い出しや、弊社での短絡発生個所の電子顕微鏡による確認、元素分析等を行い、原因の究明を行いました。その結果、「その短絡を起こした端子に、鉄(Fe)が検出されたことから、もともと短かった端子間に設置工事の際の切削粉と推測される微細な金属片が落下・付着したこと」が、短絡を引き起こした原因である可能性が最も高いと考えております。



短絡が発生した端子部で検出された鉄を主成分とする付着物

5. 再発防止に向けて

社内の全 330 台の分電盤について、点検者に短絡の原因を予め教育したうえで点検・設置工事の際の切削粉等の清掃作業を実施し、5 月 28 日に完了しました。点検の結果、4/2 までに処置した 9 台に加え、新たに端子間距離が短いと確認された分電盤 2 台についても、このことだけで直ちに短絡を発生させるような状態ではありませんが、絶縁テープを巻く処置を実施しました。今後、今回短絡が発生した当該分電盤 1 台及び端子部に絶縁テープを巻く処置をした 11 台の分電盤について、適宜端子間距離を広げる等の恒久的な措置を実施していきます。

以上